

国語・読解力をつける

2021.10.27(水)

慣れのカ

読解力の基礎には、「文を読むことの慣れ」があります。
日頃文章を読み慣れていないと、テストでいきなり読めといわれてもスムーズに読むことはできません。読解力をつけるには、まず、文章を読むことに慣れておく必要があります。

どんな文章を読めばいいか

しかし、どんな文章でも読み慣ればよいかというと、そうでもありません。
楽しむ分には、小説などの軽い文章でもいいのですが、テスト対策の学力としての読解力をつけたいのであれば、それなりの文章に慣れておく必要があります。
一番いいのが、入試に出題された文章を読むことです。
なぜならば、その1つの文章は、その学校が入試に出題するのにふさわしいかどうかを1年間かけて選んだ文章であるからです。読解するためにはいい文章であるに決まっています。

1回に読む分量ですが、当然、テスト時間を想定して決めなくてはなりません。
そうすると、分量としてはA4判2枚程度の文章ということになります。
入試出題問題はだいたいそのくらいの分量の文章になっています。

継続的に続ける

慣れるためには学習の継続が必要です。
1週間にテスト問題の5題分くらいは継続的にこなしていきたいものです。

読解の技術

読解問題は必ず、次の文で始まります。
「次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。」
これは「答は文章の中に書いてありますからそれを探してください」という意味です。
読解の不得意な人は、自分で考えて答を作ろうとします。そうではなく、出題者は設問の中に答を見つけるための「キーワード」を用意してくれています。その「キーワード」を使うことで文章の中から答を「見つけ出す」ことができるようになります。

このように読解とは、文章中に書かれているキーワードを探し出し、そのキーワードを使って答えの部分を文章の中に見つけ出す作業のことです。
これは“技術”です。好き嫌いとか、才能などにはまったく関係ありません。技術ですから、

だれでも訓練によって身につけることができます。

よく、本を読むと読解力がつきますか、という質問を受けますが、以上のことから答は導けません。「つきません！」ですね。あくまで、読解力は”技術”です！本を読むだけでは技術は身につけません。

数専ゼミの読解指導

数専ゼミでは、この読解技術を次のようにして教えます。

(1) 学習計画

10級から1級まで143回(A4プリント**572枚**)を学年に関係なくできるところから始めます。

1級を終了した人には、高校入試上級レベルの1段(10回、A4プリント**112枚**)の学習をします。

(2) 学習問題(教材)

問題は入試出題問題を中心に、物語文・小説、随筆文、説明・論説文、詩・短歌・俳句などすべてのジャンルを含む中学・高校入試対策向け”良問”です。

(3) 対象

小学1年から学習できます。言語は早期学習が効果的です。小学3年までは、漢字やことばの学習も含みます。上は、高校入試レベルの学習までできます。

技術としての読解力が学べる数専ゼミの国語教室です。

数専ゼミ・山形東原教室

〒990-0034 山形市東原町二丁目10番8号

TEL: **(023)633-1086** / FAX: (023)633-1094

メールアドレス: suusen@seagreen.ocn.ne.jp